

予算特別委員会記録（第3号）

平成24年6月21日 木曜日 午前10時00分開議

安 部 隆 委員長 我 妻 昇 副委員長

出席委員（15名）

1番	赤 間 泰 広	委員	2番	梅 津 善 之	委員
3番	江 口 忠 博	委員	4番	今 泉 春 江	委員
5番	小 関 秀 一	委員	6番	竹 田 博 一	委員
7番	我 妻 昇	委員	8番	大 道 寺 信	委員
9番	町 田 義 昭	委員	10番	佐々木 謙 二	委員
11番	安 部 隆	委員	12番	渋 谷 佐 輔	委員
13番	高 橋 孝 夫	委員	14番	大 沼 久	委員
15番	小 関 勝 助	委員			

欠席委員（0名）

説明のため出席した者

内 谷 重 治	市 長	新 野 潔	副 市 長
飯 澤 常 雄	総 務 課 長	平 英 一	財 政 課 長
遠 藤 健 司	企 画 調 整 課 長	青 木 邦 彦	税 務 課 長
宇津木 正 紀	市 民 課 長	松 木 幸 嗣	健 康 課 長
小 泉 良 一	福 祉 生 活 あ ん し ん 課 長	種 村 正 一	子 育 て 支 援 課 長
遠 藤 正 明	会 計 管 理 者 兼 会 計 課 長	梅 津 和 士	市 民 相 談 セ ン タ ー 所 長
加 藤 芳 秀	教 育 課 長	那 須 宗 一	農 林 課 長
中 井 晃	商 工 振 興 課 長	平 正 行	観 光 振 興 課 長
渡 部 政 明	建 設 課 長	浅 野 敏 明	ま ち ・ 住 ま い 整 備 課 長
鈴 木 要 一 郎	上 下 水 道 課 長	鈴 木 一 則	管 理 課 長
齋 藤 理 喜 夫	文 化 生 涯 学 習 課 長	佐 藤 孝 博	生 涯 ス ポ ー ツ 課 長
齋 藤 環 樹	学 校 給 食 共 同 調 理 場 長	高 橋 徹	選 挙 管 理 委 員 会 事 務 局 長
児 玉 行 宏	監 査 委 員 事 務 局 長	孫 田 邦 彦	農 業 委 員 会 事 務 局 長
鈴 木 智	消 防 主 幹		

事務局職員出席者

松本 弘	議会事務局長	寒河江 新一	補佐
鈴木 和夫	議事調査係長	高橋 由美	庶務係長

本日の会議に付した事件

議案第51号 平成24年度長井市一般会計補正予算第1号

開 議

○安部 隆委員長 おはようございます。

これから昨日に引き続き、予算特別委員会を開きます。

本日の会議に欠席の通告委員はございません。よって、ただいまの出席委員は定足数に達しております。

平成24年度長井市一般会計補正予算第1号に関する総括質疑

○安部 隆委員長 それでは、昨日に引き続き予算総括質疑を続行いたします。

順次、ご指名いたします。

高橋孝夫委員の総括質疑

○安部 隆委員長 順位7番、議席番号13番、高橋孝夫委員。

○13番 高橋孝夫委員 おはようございます。

私は、市民生活の向上を願いながら総括質疑を行います。通告をしております3点について質問申し上げますので、明確な答弁をいただきますようお願いをしておきたいと思っております。

質問の第1は、ふるさと交流定住事業についてです。昨日の我妻委員の質問と重複しておりますけれども、できるだけ簡潔にお伺いしたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

この事業展開の是非については、私も大いに

期待をしている事業でありまして、中途半端ではなくて、きちっとした内容の構築と推進体制を明確にして進めてほしいと考えています。特に3月定例会で私は、宅地開発事業よりも各町内会などへの移住の紹介などがまちづくりのためには必要と申し上げてきました。ずっと考えてきたこと、このことを進めるために、私の考え方も申し上げて、一緒に取り組みを進めたいと考えているところですので、あわせてお願いをしたいと思っております。

昨日、企画調整課長から、この事業の概要についてお話がありましたが、今年度は財団法人地域活性化センターの助成事業として大きく5つの委託事業を展開することと、また5つの委託外事業を行って、取り組みを本格化するための諸準備に入るといふ段階なんだろうととらえているところです。

そこで、まず行政として、どこが中心になって取り組んでいくのかについて、お伺いをしたいと思います。今年度行う5つの委託事業で収集した各種データや、あるいは構築するポータルサイトなどの管理はどこで行うのか。それらを駆使して具体的に取り組みを進めていくところ、いわばこの業務の所管するところはどこにしようと考えておられるのか、まず企画調整課長からお聞かせをいただきたいと思っております。

○安部 隆委員長 遠藤健司企画調整課長。

○遠藤健司企画調整課長 高橋孝夫委員のご質問にお答え申し上げます。

今回の事業10項目のうち五つを委託というふうなことでございます。例えば市外向けの事業としましては、移住交流のニーズについての調査をすると。市内にある空き家を利用した体験プログラムの設定をするといったことを、例えば置賜地域地場産業振興センターへ委託したいと思っております。一方、移住交流者の受け入れに対する市民の意識や市内の空き家や空き店舗の実態については、利用可能な物件を把握し